

公開シンポジウム

大学の活性化と高等教育改革

趣旨) 2020年代に入り生じたコロナパンデミックという世界史的病疫の蔓延、他方で進むDXやデジタル化は、大学の教育・研究活動に大きな変化をもたらしつつある。制度的にも2022年の大学設置基準改正、国際卓越研究大学、地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ、理系転換基金の創設など、日本の大学のあり方を大きく変えるかもしれない新たな高等教育改革が次々に進められている。

他方で、近年の政策提言のなかで、有限な時間をどのように有効に活用し、大学の組織活動の活性化につなげるかという課題も指摘されている(「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について」(中央教育審議会大学分科会審議まとめ、2021年)、「研究に専念する時間の確保について(中間まとめ案)」(総合科学技術・イノベーション会議、2022年))。この論点は、大学の組織のあり方と教育研究活動のあり方、さらにはこれまでの高等教育政策のあり方を問いなおすものでもある。

このようななか、「大学の活性化」という観点から、現在の高等教育改革や高等教育の動向を捉えなおすとき、現状にはどのような問題があり、いかなる議論が必要なのであろうか。「大学の活性化」のために何が必要で、現在の高等教育改革の動向や大学、高等教育のあり方をどのように批判的に考察していけばよいのかを、研究、教育、大学と地域の関係という異なる視点から、幅広く議論していきたい。

日時：2023年6月11日(日)13:45～16:45

場所：千葉大学西千葉キャンパス けやき会館

リアルタイムオンライン配信 併用

講演：

研究の観点から

山極 壽一 氏

(総合地球環境学研究所所長，前京都大学総長，
前社団法人国立大学協会会長，前日本学術会議会長)

教育の観点から

日比谷 潤子 氏

(学校法人聖心女子学院 常務理事，前国際基督教大学学長)

大学と地域、地方に立地する大学の観点から

山本 健慈 氏

(学校法人大阪観光大学 理事長，社団法人国立大学協会参与・
元専務理事，元和歌山大学学長)

コメント：小林 雅之 氏(桜美林大学教授，日本高等教育学会会長)

司会：小澤弘明(千葉大学副学長・国際教養学部長・高等教育センター長，第26回大会実行委員長)